

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

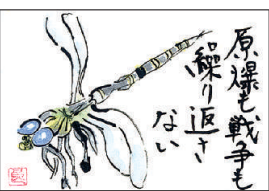
- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

◆9月の発行は、12日号、19日号、26日号です。

今週の紙面

- 2面 各地の豪雨災害／女性ニュース
- 3面 読者のページ／まんが／パズル
- 4・5面 教育のつどいin愛知／女性 働く／ホットライン
- 6面 切り花を長持ちさせる／文化情報／母の歴史
- 7面 原発事故から15年 福島集会／主張／学校とジェンダーの現在地



京都・精華町 上原良子



地震で倒壊した家屋。近づく台風や大雨に、雨漏りや地盤の緩みによる被害拡大を心配する声が(宇城市)



熊本地震発生から
1カ月

繰り返される災害 政治の責任で命を守れ

最大震度7を観測した熊本地震の発生から1カ月。4万を超える住宅が損壊し、猛暑のもよでの避難生活が長期化し、生活再建に向けた課題があらわになっています。新婦人の石原和副会長、牧祐子事務局次長は8月27・28日、被害の大きい八代市、宇城市を訪ねました。9月1日には熊本県本部事務局長の福田由美さんが、政府交渉で切実な要望を届け、早い対応を求めました。

今にも崩れ落ちそう

県本部事務局長の福田由美さん(60)の運転する車で熊本市内から八代へ。熊本市に次いで人口が多く、海と山に囲まれた自然豊かな土地です。車からは屋根にブルーシートをかけた家や壁に亀裂が入った家、屋根が地面まで崩れ落ちた家が見えました。その多くが瓦屋根の古い家屋です。余震があるなか、半壊や一部損壊の自宅を暮らす人たちの不安はどれほどか。

地震でダメージを受けた家屋がしばらく経って崩れる「時間差倒壊」が相次いでいます。八代城の近くに住む谷川弘子さん(79)の自宅は、激しい揺れで複数の家具が倒れて



正願寺の本堂で話す宇土さん。雨漏りで傷んだ畳を外し、ブルーシートを。右は山門(宇城市)

マイナスのまま暮らすのはむずかしい。避難所が縮小するなか気がかりなのが避難所を転々としている友だち親子のこと。「今いる保健センターを来週には出ないとならず、子どものストレスも大きく心配です」。引き続きつながって行政に要望を届けようと、八代支部のメンバーとLINEを交換しました。

暮らしを守ってほしい

今回の地震を起こしたとされる日奈久断層帯が縦断・通過するように延びる宇城市内。歴史ある寺社や旅館の数々が被災しました。宇土逸子さん(68)の家業は正願寺というお寺で、入り口の山門が壊れて傾いていました。本堂の倒壊は免れたものの、壁が落ちた隙間から外が見えます。10年前の地震では大規模な半壊となり、自費で再建。「罹災証明の申請は、1万件以上あって3000番台でした。判定の通知は1カ月先と言われました。神社は地域コミュニティ維持のため自治

【9月大型連休期間のしんぶんの発行について】
9月26日号は「9月26日号と10月3日号の合併号」とします。表記の期日より遅くなり申し訳ありませんが、10月3日(土)までにお手元に届きます。

新日本婦人の会中央本部

